

S E R I E S

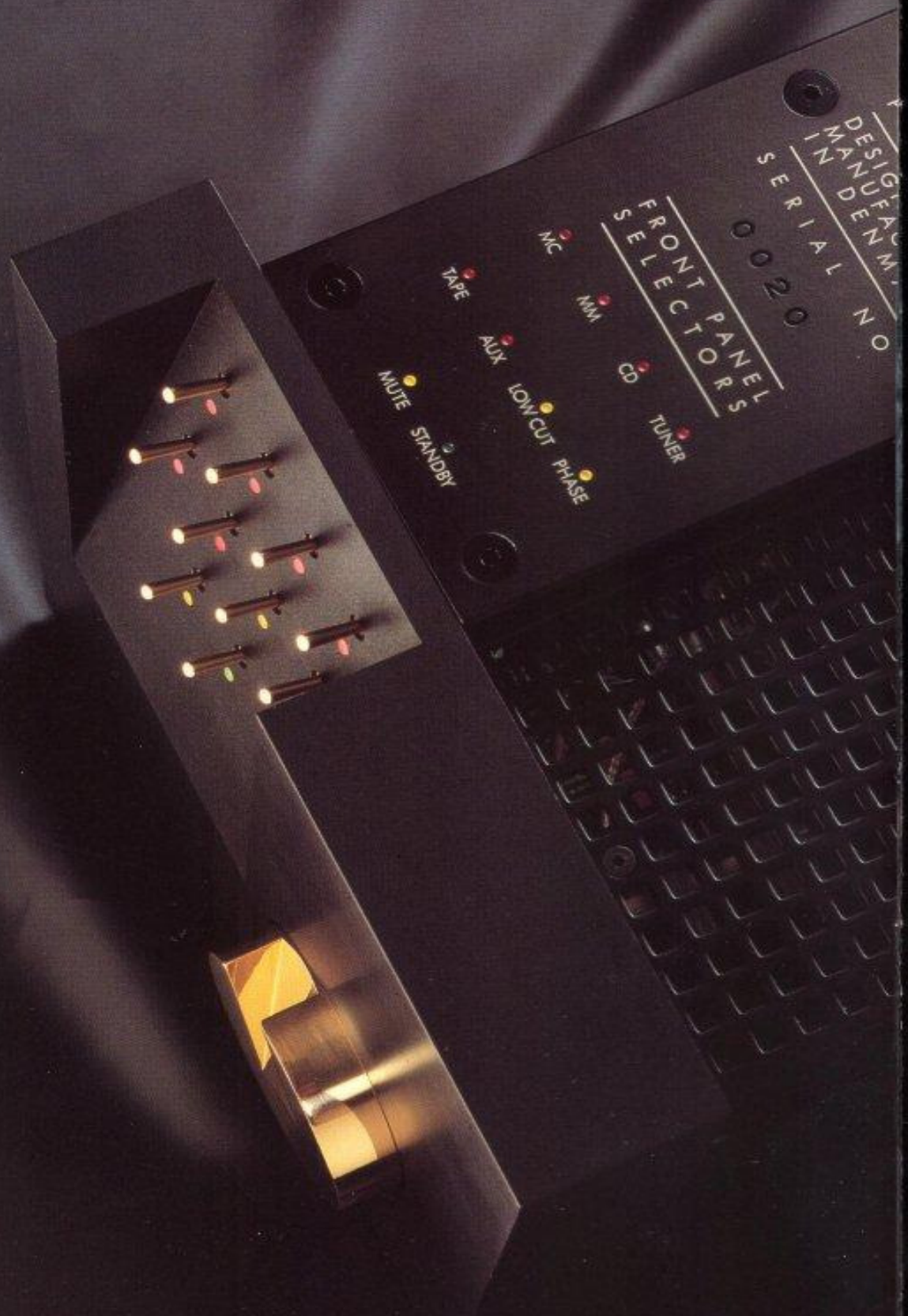
9 2 8



PRIMARE

S Y S T E M S

▲ The feeling





音楽は、人生の永続する楽しみのひとつです。そして、すぐれた聴き手は、ライブ・ミュージックの醍醐味をこころゆくまで味わうために、ダイナミックス、微妙なイントネーション、音色、解像度の高い音質、そしてフィーリングの深さなど、複雑に絡み合ったさまざまな要素に対し、直観的に注意を払っています。こうした無数の細部が、固有の雰囲気をもつ特定の三次元の空間で、聴衆を前にした演奏家たちから放射されているのです。この心ゆり動かされる経験こそ、再生音楽の高忠実度を測るための唯一客観的な基準でなければなりません。

という理由から、デンマークのプライマー・システムズが、シリーズ928アンプの開発にあたって、常に指標としたものは、自然な環境におけるライブ・ミュージックだったのです。ライブ・ミュージックの体験を家庭にもたすために、プライマー・システムズは、現在採用しうる、もっとすぐれた設計方法を選択いたしました。それは完全対称回路の原理です。

▲ The design

すべての偉大な思想がそうであるように、対称回路の構成を支える基本的理念は、注目に値するほど、単純そのものです。それは、音楽信号がプラスとマイナスの波形から成立しているという単純な事実にもとづいています。音楽信号の完全さを増幅の過程全体を通じて保つために、アンプは音楽の波形のプラス側とマイナス側を、そっくりそのまま、対称的に扱わなければなりません。

したがって、原音の三次元の音場と、空間における楽器の正しい位置関係を、すべての細部を損なわずに、正確に再現することは、完全な対称回路のアンプだけにしかできないことなのです。

その基本的単純さにもかかわらず、対称回路の原則は、実践するとなると、きわめて複雑です。そのため、一般に、もっとも進歩したアンプでも設計上の諸問題を“解決するための手段”としてどこかに非対称段が取り入れられています。対称の連鎖に生じたそのような欠落は、原音の波形の完全さを損ない、最終的な音質に犠牲をもたらさずにはおきません。

プライマー・システムズのシリーズ928には、プリアンプの入力端子からパワーアンプの出力端子にいたるまで、妥協することなく対称回路が採用されています。



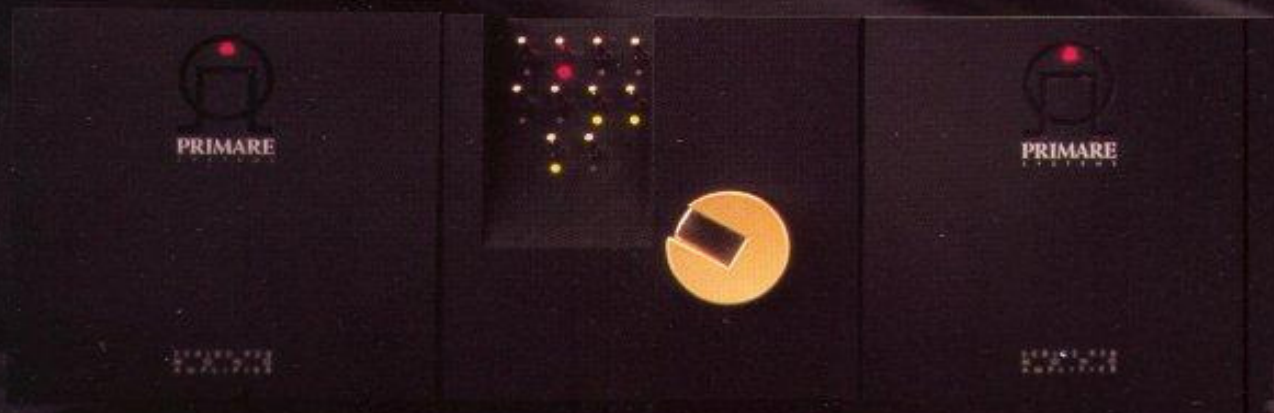


PRIMARE
SYSTEMS

SERIES 928
MONO
AMPLIFIER



▲ The system



シリーズ928プリアンプは、現在および未来の最高のターンテーブル、コンパクト・ディスク・プレーヤー、チューナーそしてテープデッキにふさわしい、意のままに働くパートナーです。それは、プライマー・システムズの多年にわたる試験経験が生みだした最終結果であり、家庭における音楽再生の頂点をきわめるために、なくてはならない特色と機能を完璧に統合した製品であります。

その一例が、いかなるカートリッジに対しても、最適な作動状態を作りだすことのできるシリーズ928プリアンプの能力です。きわめて正確なRIAAイコライザーと、12種もの入力インピーダンスを備えた、超低ノイズのMC入力段。加えて、最高級のカートリッジにさえ散見される、微少ではあっても耳で聴き分けることのできる、左右のチャンネルのアンバランスを補正するため、フォノ入力に左右独立チャンネル・バランス調整機能を備えている唯一のプリアンプでもあります。

これらの高性能の特徴は、間違いなく、あなたの選んだカートリッジの能力を最大限に発揮させることでしよう。

ハイエンド・オーディオにおいては初めてのリスニングポジションからのリモート・コントロール機能がオプションとして提供されます。ボリューム・コントロールを含めてプリアンプのすべての機能に対して有効です。

シリーズ928が切り開いたもうひとつの新境地は、フェイズ・インヴァーターの採用です。近年、真の三次元の音場再現にとって、もっとも重要な要因として、アブソリュート・フェイズ歪の存在が認められています。あなたのレコードの平板な響きと、迫真性の乏しさは、フェイズが正しく合っていないためかもしれません。

シリーズ928は、スイッチひとつの切り替えで、アブソリュート・フェイズを合わせる事ができます。

シリーズ928プリアンプは、必然的に音質の劣化を招く従来のトーン・コントロールとバランス・コントロールを廃しました。標準的なポテンショメーター・ボリューム・コントロールさえ不適格として、金メッキ接点の本格的アッテネーターを採用することによって、ボリューム・コントロールを音色的に透明に保つことが可能になりました。シリーズ928プリアンプのユニークな出力段は、音楽信号を少しも減らすことなく確実にパワーアンプに受け渡します。

シリーズ928プリアンプは、定規で引いた線のようにフラットで、無視できるほどに低い出力インピーダンスによる、完全なバランス・モードで作動することによって、通常のアンバランス回路のプリアンプとパワーアンプを結ぶケーブルに発生する信号ロスを排除しています。

初対面の印象では、プライマー・システム・シリーズ928モノブロック・パワーアンプは人目をあざむくばかりに小型ですが、その控え目なサイズに惑わされてはなりません。それぞれのモノブロックは、40アンペアの電流供給能力を有しており、0.5オームという異常とも思える低インピーダンス時においても1,000ワットの出力を確保することができるのです。このパワーアンプは、いかなるスピーカーにも、その持てる性能のすべてを発揮させ、ライブ音楽に近いダイナミック・レスポンスと、豊かな音楽的細部をたたえた、きわめて安定した三次元の音場を再現してくれることでしよう。

シリーズ928のコンパクトなデザインと短い信号経路は、余分な構成部分をいっさい取り入れずに、内部配線を可能な限り短くした、きわめて論理的な設計の直接的な結果なのです。特に、常時、高電流を扱うパワーアンプにおいては、内部配線はとりわけ決定的な要因となります。余分な配線は、わずか数ミリでも、必ずや耳で検知できるだけの音質劣化を招きます。

しかし、シリーズ928モノブロックパワーアンプは、最高のそのまた上をいくエンジニアリングを具体化したものです。そこには、そのひとつひとつが、パワーアンプの不朽の音楽的性能に本質的役割を果たしている、数多くの革新的アイデアが盛り込まれています。それらのアイデアのなかでも飛び抜けているのは、パワーアンプの回路においてネガティブ・フィード・バックをいっさい排除している点でしょう。価格のいかにかわからず、他のほとんどすべてのパワーアンプには、歪みを減少させるための手近な療法としてネガティブ・フィード・バックが採用されています。残念なことに、ネガティブ・フィード・バックによって歪みを減少させると、再生音は、冷蔵で味わいに乏しいという、好ましからざる性格を帯びてきます。

シリーズ928の広がりのある自然な音楽的性能は、プライマー・システムズが、ネガティブ・フィード・バックに頼ることなく、あらゆる種類の歪みをめざましく減少させることを可能にした、創造的なエンジニアリングによって、達成されたものなのです。しかし、技術に関する細目と単なることばだけで、プライマー・システムズ・シリーズ928の音を正しく伝えることはできません。

わたしたちが入念に選んだオーディオ・ショップでのリスニング体験があなたをお待ちいたしております。